

卒業50周年記念同窓会

「来年は君達、昭和37年卒業生の卒業50周年記念同窓会を開催する年なので準備するように」とのメールが来たのは令和3年の秋でした。

逡巡していてもしかたないので声を掛け合い5名の幹事団を結成し、過去の実施状況などをチェックしたものの、昭和45年、46年卒業の先輩方の同窓会もコロナの影響で延び延びになっている中で今年は本当に開催できるのか、開催してもコロナ禍の中で出席してくれるのか、さらに私達の学生時代は学園紛争の影響で通常の授業が行われず、机を並べて学ぶ機会が少なかったため、その分同期生としての絆を深めることが難しい状況にあったので、同窓会を開



催するといってもどれほど共感を得られるのか等、心配は尽きませんでした。

年明けより幹事間のメールや同窓会事務局の場所を借りての幹事会の開催により、開催日時や場所を決め、4月には案内状を作成、発送に漕ぎつきました。案内の対象は昭和42年以前入学で47年卒業の方、昭和43年入学で47年、48年卒業の方の内、逝去が確認できている方と住所不明の方を除く約180名。1か月後の集約では、出席32名、欠席51名、大半は返信がありませんでした。

夏を過ぎる頃にはコロナ禍は小康状態になり、開催が可能と一応の判断をした上で最終案内を発送し当日を迎えることになりました。

開催日時は11月15日。場所は百周年時計台記念館国際交流ホール。卒業生の最終出席は27名。

13時より、湊総長、依田経済学部長、草野同窓会常務理事代理、池上惇名誉教授のご臨席を賜り式典開催。

総長、学部長からご挨拶をいただいた後、学園紛争のため卒業式のないまま卒業した私達のため、湊総長より代表者に50年ぶりに卒業証書

（正式には「合格証書」）を授与していただきました。その後16時までパーティー。記念写真を撮り散会。二次会は「がんこ 二条苑」12名が参加し名残を惜しみました。

私達の同窓会は懸念していた通り小規模なものとなりましたが、その分参加したひとりひとりの思いは深く、濃密な集いとなり、それはそれで良かったのではないかと思っております。

最後に準備段階から当日まで大変なご尽力を頂いた幹事の皆さんにこの紙上を借りてお礼申し上げて報告にさせていただきます。

（文責 小塚修一郎）

